

シャッター通りは誰のせい？

先日、ある勉強会でとても興味深い話を聴きました。最近、ヨーロッパのフランスとスペインの地方都市を視察に行った大学の先生の話。小田原と同じような規模の、フランスのアンジェ（人口 15 万）、ボルドー（人口 25 万）、ビアリッツ（人口 2.5 万）、スペインのサン・セバスチャン（人口 19 万）、ビルバオ（人口 35 万）など廻って感じたことは、小田原を含めた日本の地方都市と比べると圧倒的にシャッター通りが少ないこと。そして、シャッター通りのないまちには、コンビニやチェーン店が少ないこと、地元の小さな店が多いこと。コンビニやチェーン店の出店を規制しているわけではなく、コンビニやチェーン店は一定の店数以上は成り立たないのだそうです。つまり、お客さんが来ない。つまり、お客さんはある一定程度、地元の店を選んで買っているということです。

お話の中でとても分かりやすい表現だと思ったのは、「朝ごはん食べるパンをどこで買いますか？」という問いです。いつでも開いている便利なコンビニで、TVのCMで見たパンを買いますか？それとも、近所で夫婦が天然酵母や地場産の粉にこだわって焼いているパンを買いますか？という問いです。私たちは特段考えることもなく、自然に便利な店でTVのCMなどで馴染みのブランドのパンを買います。自分が支払ったお金がどこへどう流れていくかなどは全く考えることもなく。そのようなことは誰からも教えられてもこなかったし、誰にも教えもしていないし。

コンビニやチェーン店を否定したり、非難するつもりは全くありません。経営努力により便利で豊富な品揃えがあるからお客さんが集まり繁盛するのですから。ただ、私たちは同時に生活者として自分の住むまちのことにも少しは思いを巡らせることも大事なことなのではないかと思います。10回のうち、1回か2回は地元の店で買いませんか？ということです。

自分が支払ったお金がどこをどう巡っていくのかは地域の経済にとってはとても重要なことです。地域で廻るお金を増やし、廻るスピードを上げていくことがいかに地域の暮らしを下支えする私たち地域の中小企業にとって大切なことか。私たちがその役割を果たすためには、企業活動がしやすい環境、つまり、元気な地域経済が必要です。（卵や鶏かの議論のようですが）

シャッター通りを通りながら、私たちは往々にして、「商店街がだらしない」とか「行政がちゃんと支援しろ！」とか批判しがちです。しかし、シャッター通りを作っている半分の責任は住民にもあるのではないのでしょうか？

私たちは事業者（供給する側）であると同時に住民（消費する側）でもあります。私たちの意識が変わらなければ、いくら空き店舗に補助金を出しても、いくら商店街の販促イベントをやっても、根本の解決にはならないのではと思います。

お金の流れを考える機会を作りませんか？そして、10回のうち少なくとも1回は地元の店を使いませんか？「地域の経済循環」というと、難しい他人事に聞こえてしまいがちですが、実は自分事なのだと思います。

会頭 鈴木悌介